大正四年十二月

出版第八四號

金包里支廳管內

患畜實見錄

臺灣總督府農事試驗場

種藝

育種農藝科圖書

臺灣農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

金包里支廳管内 患畜實見録

臺灣總督府農事試驗場技師 井原英市

余は臺北廳下金包里支廳管内に於ける家畜地方病調査のため去る十月中旬流行地方に赴きて實際を取調べ、左の病例を得たれば玆に其顛末を報せんとす。若し夫れ該記事にして幾分にても同學の士に對して參考となるを得ば余の光榮とする所なり。

一 流行地方に於て實檢せし病例

余は金包里支廳出身者なる農事試驗場獸醫科講習生黃火圳と共に十月十六日金包里に著し、直ちに支廳に出頭病豚發生の模樣を聽き、翌十七日該支廳主任獸醫中西氏と共に流行地方に赴き左の實檢病例を得たりき。

第一例

豚　頂雙溪種　牝一歲

畜主　金包里堡下中股庄崙仔頂二十九番地　許開三

既往症　十月初旬より食思不振元氣消失すと、

現症　榮養不良、食慾減損、被毛粗剛、光澤を失し結膜は貧血に陷り、黃白色を呈し且つ眼脂の附著せるを見る。體温常態なるも呼吸困難肺勞の徵を呈し、弱き咳嗽を發し、大に羸瘦す。且つ鼻孔より膿樣粘液を漏す。打診すれば不正の濁音、聽診すれば微弱なる氣胞音竝に「ラッセル」を聽く。復部を按壓するに多少の疼痛を訴ふ。便通は寧ろ遲滯す（中西獸醫と共に診斷す）。

中西獸醫の報告によれば約五箇月以前該患豚舍に於て不定型の豚「ペスト」に因せる斃死豚を出せりと云ふ。

第二例

豚　頂雙溪種　牝一才

畜主　金包里堡下中股庄金包里街九〇番地　許海亮

既往症　中西主任獸醫よりの報導によれば、初診は九月二日にして其當時の稟告にては八月下旬より漸次後肢の跛行を呈し、步行蹣跚榮養不良日々衰弱する傾向ありと。

現症　榮養中等食慾佳良なるに拘らず、擧動快活ならず、眼瞼結膜は寧ろ貧血に陷り、黃赤色を呈す。脈搏體温には異常なきも起立を厭ひ、頻々伏臥し、後には後軀萎弱となり、人力を籍るに非ざれば立つこと能はず、鞭韃を加へ强て速歩せしめんと欲せば殆ど倒れんとし、或は頭を垂れ臀を低下して短歩す。糞は小塊をなし之に粘液を被る（前者と同じく中西獸醫と共に診斷す）。

但し九月二日診斷せしは二頭の同病豚なりしも、投藥を中止し、單に飼料のみを一變せし結果、內一頭は榮養恢復日々治癒

農業部農業試驗所藏典
由國家圖書館數位化

農業部農業試驗所

に赴き、他の一頭は一時快方に赴きしも後、惡液質に罹り、病勢增惡して斃死せりと云ふ（中西氏の談）。

右豚は單に酒醸造殘渣のみにて飼養せしものなり。

今ま第一例に關する豫防法を述ぶるに先ち參照のため左に同病に關する内外實驗の梗概を摘記せんとす。

豚「ペスト」Schweinepest. Pestis suum は可濾性微生體によりて發する豚の出血性敗血症にして、其經過中屢々サルモン並にスミス（一八八五年）二氏の發見せる豚「ペスト」桿菌 Bacillus Suipestifer の混合傳染を蒙り、腸粘膜に於ける本症特有の釦狀結節竝に腹部淋巴腺の乾酪變性を見るを其特徵とす。本症は米國、歐洲竝に亞細亞等汎く各地に發生し、殊に北米にありては一八八八年に四千五百萬頭の豚を襲ひ其損失無慮二億弗に達せりと云ふ。

病毒の本體は固より目擊するを得ず、主として血液、血清、臓器液、膽汁竝に尿中に發見せられ、素燒の細菌濾過器にて濾過せる血清一乃至二C.C.を幼豚の皮下に注射すれば、一定の潜伏期を經て高熱、皮疹、結膜炎竝に下痢を發し、後ち壞疽性腸炎竝に急性肺炎を發す。本病は又た豚以外の動物には全く感染せず。

自然傳染は患畜の糞尿竝に病變臓器に汚染せる飼料竝に飲料水による。之れ飼養試驗の證明する所なり。傳染力は頗る大にして直接には患豚の尿、結膜分泌物竝に氣管枝分泌物により、間接には豚商、豚市場等の媒介による。

病毒は久しく體内に棲息し、絕へず尿等より排泄せらる。從つて外觀上健康なる豚にして屢々病毒侵入の淵源となることあり。素因は長途の輸送、感冒竝に飼料變換等によりて增加す。潜伏期は最短四日にして又た著しく長期間に亘ることあり。

徵候は一定せず、急性の症にありては高熱と出血性腸炎若くは出血性敗血症の症狀を呈し、多くは數時間内に斃る。或は肺炎竝に腸炎の徵を表はし、屢々皮疹の隨伴せるを見る。其の經過は五日乃至八日又は二三週間に亘る。死率は八〇乃至九〇％なり。

慢性のものは急性より轉じ來り、又は始めより慢性の狀を以て現はるゝことあり。數週又は數ヶ月を閲す。勿論病竈の位置により或は慢性肺病又は慢性腸病を發す。

一般病徵は初徵として食慾減損若くは絕止、群を離れ豚舍の一隅に蟄居す。次で伏臥し、或は背を彎し、頭を垂れ、一箇所に佇立す。往々初日又は第二日に於て嘔吐を發することあり（該嘔吐物には膽汁を混ず）。口粘膜は著しく潮紅し、熱を帶び口緣、舌背、舌根、兩頰竝に咽頭に於て不潔灰色又は黃色の緩疎剝脫上皮を見る。扁桃腺は高度に腫脹し或は該部に糜粥狀の塊にて蔽はれたる腫瘍を見ることあり。便通は初期遲滯するも暫時の後下痢し、糞は稀薄水樣にして臭氣甚し。通常淡黃色又は暗黃色にして稀に帶綠色を呈す。只だ稀に血液を以て著染せらるゝことあるも、固より例外に屬す。偶々觸診上腹壁下に多數の小腫瘍又は一個の大腫瘍を察知することあり。重症にありては下痢と便秘と互變し、死に至るまで止まず。衰弱貧血日に加はり遂に脫力して傳染後僅に二日を經て死す。されど多數のものは罹病的二三週間内に死す。他の場

合には一乃至三週間の後腸に於ける急性症狀輕減し、食慾漸次佳良となり、下痢全く停止し、運動活潑となりて全治するものあり。之に反して時として患豚は急性症狀輕減せるに拘はらず、食思不振下痢便秘互變し、遂に患畜は發育障碍高度の貧血並に惡液質に陷り數月の後鬼籍に上ることあり。

其他尙は豚「ペスト」と豚疫との混合傳染を見る、この場合にありては、其の病候種々多樣にして説明困難なるも要するに二症の徵候混在せるに過ぎず。

屍體に於て尤も著明なる變狀は羸瘦貧血、多發性壞疽性肺炎、格魯布性兼實扶的里性胃腸炎、腸の潰瘍殊に大腸(盲結腸)に於ける黃色乾酪樣釦狀腫にあり、其の他尙は往々癒著性腹膜炎、出血性腎炎、纖維素性心囊炎並に癒著性肋膜炎を見る。

以上述べし實驗概要並に從來余の目擊せし數多の同症狀を呈して斃れたる病例及び中西主任獸醫の該報告とを綜合すれば、本症が豚「ペスト」の後病たる慢性肺病(勿論消化器にも病變を認むべし)たるは臨床上毫も疑を納る、能はざるが如し。從つて該病に對する總ての處置は豚「ペスト」の場合と同一ならざるべからず。

二 豫防法

左に實行の見込ある豫防法を示さんとす。

(イ)地理人情的關係、　月尾川金包里街を繞りて流る。而して從來の實例に徵するに該流域に沿へる部落は上流沿岸部落に本病發生ある每に、必ず傳染の災害を蒙ると云ふ。尙は該地の人民は當支廳長の報告並に二三有識者の説とによりて察するに、一般に頑朦にして豫防制遏法の何たるを辨せず、家畜の糞尿其の他の汚物の如き本病の流行蔓延に向つて、尤も危險なる物を警官又は獸醫の目を忍びて夜間竊に該川中に放棄するを例とすと。勿論放棄糞尿の正確なる數量的統計を得る能はざるも、殆ど總排泄量の三分の二に達すべしと云へり。之れ本病の流行累年連綿として絕へざる主因たり。

(ロ)土壤と消毒藥との關係、　事專門に屬し正鵠なる記事を得ること難し。されど該地殊に海岸に接近せる部落にありては一般に水分滲透性に富む。從つて畜舍の消毒に多大の費用と勞力とを要し、尙且つ完全なる消毒の實施不可能なると石灰乳の如き比較的安價にして病毒滅殺に有効なる藥品の使用不適なること之なり。

(ハ)貧富の差甚しきこと、　該地の人民貧富の差甚しく、而も其最多數は貧民にして豚に必要なる飼料の給與すら充分ならず。況んや豚舍の改造に於てをや。到底得て望むべきにあらず。殊に海岸部落は半ば漁業を以て生計を營みつ、あるに、本年にありては一般に不獵にして人民は殊更ら貧弱に陷れるが如し。

以上列記せしことより、考案すれば該地の豚「ペスト」(豚疫との混合傳染もあるべし)たる之を現在の儘に放任せんか永年の久しきに亘ると雖も之が根治を期すること能はざるべし。畜舍を改良し糞尿を一箇所に集め、病毒に汚染せるもの若くは染毒の疑あるものは悉く之を燒却するか、又は昇汞千倍溶液の如き廉價の消毒藥を用ひて適當に處理したる後之を肥料に應用す

農業部農業試驗所

る等は合理的病毒撲滅法なるべきも、經濟其他の都合上實施困難なる所あり。然らば之を如何にすべきか曰く、

(イ)農家の閑散季節を利用し、獸醫をして人民を集めて獸畜傳染病に關する講話をなさしめ、以て豚疫の發生、病理、豫防法並に養豚事業に及ぼす滲害等を知悉せしむること。

(ロ)消毒の目的を遂行せんには必ず一部落又は一地方の全部を通じて普く消毒法を勵行せしむること。

(ハ)健康地と染毒地とは絕對に區別し、且つ染毒地に於ける豚の輸出入並に豚商人の通行を禁止すること。

(ニ)豚籍を查定し病豚並に斃豚の屆出を嚴重に勵行せしめ、且つ豚疫流行期外にありても輸出入豚に對しては必ず獸醫をして健康診斷を爲さしむること。

以上四項を嚴密に實施するを得ば本疫の撲滅を謀ること蓋し難事にあらざるべし。

三　第二例に對する豫防治療法

臨床診斷上佝僂病に酷似せるを以て左に該病に關する內外實驗概要を摘記せんとす。

佝僂病 Rhachitis は榮養障碍に因する幼獸の疾病にして、主として軟骨組織の增殖並に新生骨組織の發育不全其他不規則なる化骨線に於ける骨組織發育の結果骨骼に種々の畸形を呈する症なり。

本病は慢性初年病にして、榮養障碍より來るものなるは夙に幼駒並に犢に於て證明せられたり。又た日光並に新鮮なる空氣の缺乏は人體にありては本病の發生に密接なる關係あるが如きも、家畜にありては其の感作大ならず。(殊に駒並に犢の如きは何等の影響を受けず) 只だ豚に於て目擊せらるゝに過ぎず。例へば濕潤なる地窖又は暗濕の豚舍に發生するが如き之なり。されど主要の原因は飼料の化學的組成異常にあり。之れ幼豚又は哺乳せる母獸に不適當なる飼料を給與して以て本症を多發するによりて了解せらる。殊に豚にありては庖厨の殘渣又は馬鈴薯單味の如き滋養分並に石灰分に乏しき不良飼料の攝取に因すること多し。尙は豚並に草食獸にありては土壤の成分亦た間接の原因となることあり。其他重症の胃腸加答兒は恐らくは飼料中に含める石灰鹽類の吸收を沮害し、以て本病の誘因となる。

遺傳は本病の發生と何等の關係なきが如し、傳染の有無に就ては未だ充分なる探究を經ず。

剖檢上主要の病的變狀は管骨にありては骨端の硬化と骨體の短縮とを來すにあり。且つ此際骨組織は健康體の夫に比し柔軟にして、切截容易となる。尙は或種の骨片にありては畸形を呈す。縱斷すれば骨膜下並に骨膜と新生骨組職との間に血管に富める柔軟なる海綿樣層を見る。又た骨端軟骨と骨體との間には往々一「センチメートル」に達せる赤色組織あり。而してこの期にありては骨體と骨端との連合は弛緩せられ、些細の力によりて容易に分離せらるゝに至る。尙ほこの柔軟なる骨片は固より負重並に筋肉の收縮力に耐ゆる能はず、從つて屈曲凸凹種々の畸形を呈するに至るものとす。

扁骨特に肩胛骨並に骨盤骨の如きにありては、或は骨膜の類骨組織增生の結果、肥厚を呈し、又は之に反して扁平となる

而已ならず、往々骨質全部吸收せられ只だ所々に菲薄なる單層又は重層の骨膜のみを殘すことあり。而して其畸形は特に骨盤骨に多發するものとす。

其の他尚ほ關節竝に近傍に於ける靱帶の炎症を見る、或は又た貧血、胃腸加答兒竝に呼吸器加答兒の病變を見る。尚ほ豚にありては結核性變狀を見ること稀ならず。

症候中主なるものは豚にありては異物嗜好、全骨骼の異常特に脊椎骨竝に骨盤骨の異常屈曲に因する種々の畸形、歩履強拘等なり。其の他尚ほ輕度の鼻塞病 *Schnüffelkrankheit* を發することあり。

經過慢性にして數月に亙るを例とす、只だ合併症を發せる場合に於て例外を見るのみ。

豫後不定なり、而して從來本島に於ける此種の罹病豚は死亡率至つて大なるが如し。

以上内外諸實驗に徵すれば、本病に對する豫防法は大約左の如し。

(イ)通氣に注意し乾燥せる明所に豚舍を設立すること。

(ロ)飼料中には必ず人工骨粉又は貝殼粉の如き石灰分を適量に混ずること。

(ハ)生後少くとも一箇年間は豚をして自由に運動せしむる事。

既に本病發生せば左の藥用療法を試むべし。

輕症にありては人工骨粉を飼料中又は乳汁に混じて與ふ其量豚にありては一日量二―六「グラム」とす。尚ほ燐酸石灰と鐵劑とを伍用することあり。例へば

乳酸鐵　燐酸石灰各々　〇・五―三・〇

の如き之なり。重症にありては化骨機能催進の目的を以て燐を用ふ。其量豚にありては〇・〇〇二―〇・〇〇五にして、適量の肝油に溶解せしめて與ふ。從來多數の實驗報告は本劑の特効に就て言へり。既に骨の畸形增進せるものに對しては速に動物を賣却するを良策とす。

終に臨み一言せんとするは余が調査せし地たる、僅に金包里支廳下の一部落に過ぎず。從つて本病の分布せる範圍すら明瞭ならず。又た本病は急性の經過を取ること極めて稀なるにより、人の之を恐る、他の獸疫例ば豚疫等の如く切ならざるも、其畜産界に及ぼす損害は蓋し尠少ならず。苟も畜産改良の目的を達せんと欲せばこの種の疾病を一掃せざるべからざるは論なし。

(附言) 今回の調査に於て德成金包里支廳長の該地民情に關する有益なる講話竝に支廳詰獸醫中西俊明君の病畜に關する詳細なる說明を得、始めて此稿を綴るに至りたるは余の大に幸福とする所なり、玆に兩氏に對して厚く謝意を表す。

農業部農業試驗所

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895